Orthodontists' Group of Central Japan

第一大臼歯は、力持ちで働き者。健康な暮らしを守ってくれる。

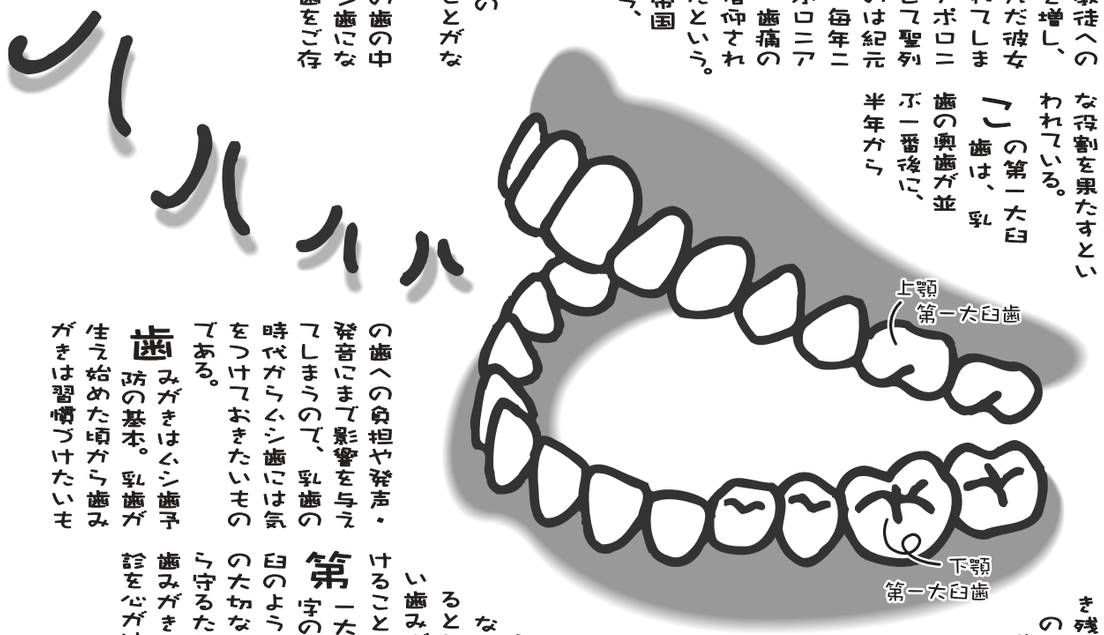
片手に棕櫚の葉をもち微笑む聖アポロニアは、歯痛の守護神。北アフリカのアレクサンドリアに生まれ、ナイルの妖精とも称えられた美貌の持ち主である。幼い頃に洗礼を受け、アポロニアと呼ばれるようになったが、当時はローマ帝国全盛期。キリスト教徒への迫害は激しさを増し、殉教の道を選んだ彼女は、歯を抜かれてしまったという。アポロニアが殉教者として聖列に加えられたのは紀元三百年。以来、毎年二月九日は聖アポロニアの祝日となり、歯痛の守護神として信仰されるようになったという。

古代ローマ帝国の時代から、歯痛は人々の悩みの種。以来、二十全盛の現代でさえ、その悩みは変わることがないようである。

さて、人間の歯の中で最もムシ歯になる確率が高い歯をご存じだろうか。

それは第一大臼歯。別名で六歳臼歯とも呼ばれるように、小学校一年生くらいに最初に生えてくる永久歯である。第一大臼歯の咀嚼力は全体の約六割。上下左右一対の四本の歯が食べ物をかみ砕いているというわけで、一生の中でも一番大切な役割を果たすといわれている。

この第一大臼歯は、乳歯の奥歯が並ぶ一番後に、半年から一年かけてゆっくり生えてくるのだが、大臼歯が生える前に、乳歯がムシ歯になって抜いてしまうと、必然的に大臼歯の生える場所もずれてしまい、かみあわせも悪くなる。ずれたかみあわせをそのまま放置しておくと、他の歯への負担や発声・発音にまで影響を与えてしまうので、乳歯の時代からムシ歯には気をつけておきたいものである。



歯みがきはムシ歯予防の基本。乳歯が生え始めた頃から歯みがきは習慣づけたいものである。しかし、それがイコール「磨けている歯みがき」にはつながらない。特に第一大臼歯は、乳歯の後に遅れるようにゆっくり生えてくるため、歯ブラシが届かない。ゴシゴシと普通にみがいていては、大臼歯の上を通過してしまう。この磨き残しが、ムシ歯の確率を引き上げているようだ。

だからこそ、お母さんや家族の仕上げみがきが必要となってくる。子どもが磨き残した奥歯まで、丁寧に、ゆっくりと。このスキンシップは大切な愛情表現であるとともに、正しい歯みがきを習慣づけることになるからだ。

第一大臼歯は、その字のごとく大きな臼のような力持ち。この大切な歯をムシ歯から守るために、正しい歯みがきと定期的な検診を心がけよう。

http://www.ortho.gr.jp/
〒460-0022 名古屋市中区金山1-1-11 ジャルダンシャポー 2F
TEL 052-321-5580
中日本矯正歯科医会事務局

関連するホームページは

愛知県歯科医師会
http://www.nhk-chubu-brains.co.jp/ad8020/
日本矯正歯科学会
http://www.jos.gr.jp/
日本臨床矯正歯科医会
http://www02.so-net.ne.jp/~ hahaha/

中日本矯正歯科医会
Member : Orthodontists' Group of Central Japan